



もみくんちだより



R1.7月発行 vol.6

いよいよ夏本番！暑い日が続き、プールも始まり、体調管理もよりいっそう気をつけていきたい季節となりました。もみくんちでも6月半ばから手足口病や咽頭結膜熱（プール熱）などの“夏風邪”と称される感染症での利用者さんが増えてきました。特に手足口病でのお問い合わせが多数でした。

3 大夏風邪

夏風邪の中でも子どもがよくかかり、感染力が強く流行しやすいのがヘルパンギーナ・手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）です。ヘルパンギーナと手足口病は、コクサッキーウイルスが原因で発症し、咽頭結膜熱（プール熱）の原因はアデノウイルスです。両ウイルスとも様々な型があり、一度感染しても何度でも感染することがあります。飛沫や接触などによって伝染し、特効薬はなく、治療は症状に応じた対症療法が中心です。食事は刺激のあるものは避けて、のどごしの良い冷たい飲みものや、かまずに飲みこめる食べものを与えましょう

ヘルパンギーナ

- ・潜伏期間 3～6 日
- ・38℃～40℃の発熱が 2～3 日続く
- ・のどが赤く腫れ、周囲が赤くなった
1～数mmの水包ができる
- ・のどの痛みから飲食できなくなり、脱水の危険も



手足口病

- ・潜伏期間 3～6 日
- ・38℃以下の発熱が多いが、高熱がでることも。1～3 日で解熱
- ・手の平、足、口の粘膜やおしり等に
5～7mmほどの水包
- ・口内炎がひどいと飲食不可に



咽頭結膜熱（プール熱）

- ・潜伏期間 2～14 日
- ・39℃前後の高熱が数日～1 週間続く
- ・目の充血、目脂、涙目、まぶしがる
- ・のどの痛み
- ・感染力が強く、プールの水
やタオルの共用で感染



手足口病とヘルパンギーナの注意点

感染者の唾液、痰、鼻水から直接、あるいは触れた手から、ウイルスが周囲の人の口やのどの粘膜に運ばれることによって感染していきます。感染すると便の中にも存在するので、おむつを替えるときなどに、手に付着して感染を拡大することもありますので、十分に手洗いをしましょう。回復後も口（呼吸器）から1～2週間、便から2～4週間にわたってウイルスが排泄されるので、注意してください。感染するのは主に5歳以下のお子さんですが、まれに大人にも感染します。

登園のめやすは熱が下がってから1日以上経過し、普通の食事ができるまでとなっています。

さまざまな症状が現れるアデノウイルス

一年を通して感染する病気ですが、夏に患者が増加します。ウイルスのタイプによって発熱、咽頭炎、胃腸炎、結膜炎、発疹など、さまざまな症状を引き起こし、同じタイプであっても、患者によって咽頭炎が強く出たり、結膜炎が強く出たりすることがあります。アデノウイルスへの感染が疑われたら、専用の迅速キットで調べることができます。感染力が強いので、おむつ交換後や接触後は石鹸と流水で十分手洗いをしましょう。

回復しても咽頭（のど）から2週間、便から30日間ウイルスが排出されるので気をつけましょう。主な症状（発熱、のどのはれ、眼の充血）が消えてから2日を経過するまで、登園は控えましょう。

お問い合わせは…病児・病後児保育事業所 もみくんち

〒780-0945 高知市本宮町 101-1 デイ・ビ・センターこだま 2 階

TEL (088) 849-2184

開設日：日・祝・年末年始除く 8：00～18：00